
遊戯王 蛇と悪魔と屍と

高野豆腐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 蛇と悪魔と屍と

【Nコード】

N1281P

【作者名】

高野豆腐

【あらすじ】

自称フリーニーターの男が気付いたら遊戯王の世界に衝撃的な若返り！

そして訪れる青春！

マザコンでロリコンなフリーニーターに明日はあるのか！

何故ナーガ様はあんなに美しいのか！

彼の疑問は止まらない…

愛車と尿瓶とカーテンと（前書き）

二次創作は初めて書くので色々崩壊すると思います。
取り合えずデュエルアカデミアの鮎川先生って歳いくつなんですか
ね？

愛車と尿瓶とカーテンと

メラゾーマではない、これは余のメラじゃ。

「そんなバカなっ!？」

バーン様のバカあああああ!!

誰か大魔導士つれてこい!

っは!

ゆ、夢?

夢に悪魔の様な大魔王が…!

同じ元ネタなら俺的にはベホマ責めをくらう大魔王様のが好きだなあ…

いや、今気付いたけどそんな状況じゃあないな。

ここ何処だよ?

白い天井、カーテン、自分のじゃないベッド。

俺は只のフリーニーター(たまにバイトして基本ニートの略語。造語)だからバイトが休みの昨日は1日かけて愛車の「麒麟児暁我謝丸号」(自転車!バイクは免許あるだけさ!)のメンテして寝る前に愛しのデッキを作りあげて就寝したはずだ。
それなのにここは…

「見慣れない天井…」

遊んでる場合じゃないよ俺のバカっ!

真面目に何処だよ…?

助けて母さん…。

「Help me, KASANNNN!」

何処だよここ!ここ何処だよ!

訳が分からない！

まさに意味 不明！

だから遊んでる場合じゃないよ！

激しく頭をシェイク。

これを見たらデスメタルのファンも自分を見つめ直すだろう。

取り合えず落ち着け俺。

話でもしようや…お茶でも飲んでさ…。

それ尿じゃねえか！！

慌てるな俺。

まずはよく回りを見渡すんだ…

Q、何がある？

A、カーテン・窓・花瓶・俺の鞆・尿瓶・麒麟児曉我謝丸号

…！？

目を擦ってから開けてみる。

…！？

やっぱり麒麟児曉我謝丸号がある…

室内だよなここ…

雰囲気から察するに病院か？

でもナースコールも点滴もない。

事故とか急性の病気じゃないわけか。

Q、でここ何処？

A、わかんね。

何故尿瓶があるのか、何故麒麟児曉我謝丸号があるのか、謎が増えるばかり。

と思っっていたらドアが開く。

カーテン越しだから良く分からないけど取り合えずドアが開く。

ツカツカと足音が、歩き方的には女性。

それもそこまで背が高く無いな？

年は大体20後半から30前半。恐らくこんな感じだろうな。

何故わかる俺よ。

そして足音が近付きカーテン開かれる。

「あら？起きてたの？」

ちよつと驚いた様子の女性。

驚きたいのはこつちだけだな？

取り合えず今欲しいのは会話じゃなく情報だ。

率直に聞くのが一番てすね？

「すみませんここ何処ですか？」

沈黙って辛い！

「……はい？保健室に決まってるでしょう？貴方は校内で倒れてたんだから」

何を当たり前みたいに言ってる訳えええ！？

学校なんて3年前に卒業しましたよ！？

そのあとはフリーニーターですがね！

「はい？俺は学生じゃないんですけど？」

頭の中には？がいつぱい

叩いたら増えるのかな？

いいえ減ります！脳細胞が！

「ホントに何言ってるの？貴方はここ、「デュエルアカデミア」の入学試験に来て筆記試験の終わりに倒れたのよ？幸い実技試験には時間があるから準備したら？」

まてまてまて…

状況を整理させやがれ年増！

とにかくだ、これを小説やら漫画に例えるなら…

遊戯王GXの世界にトリップしたんだお

つてか？

嘘だろおおおお！？

マジで？マジで？マジ出島！？

そ、そんなの有るかよ…

とにかくだ、もしそれが本当なら。

もし本当にデュエルが強い事がアドバンテージになる世界にトリップしたのなら…

ラッキーじゃね？

よし！無くした青春をもう1度堪能するぜ！

取り合えず自棄だよ自棄！

トリップしてたとしても実家はあるだろうし母さんにも会えるな…

……うん。

俺独り暮らしじゃーん！

死んだ婆さんの家で独り暮らしじゃーん！

と、とにかく実家があるなら大丈夫だ！

試験うけてサクサク帰ろう！

実技試験なんて楽勝だ！

鞆に入ってるデッキにもよるけど楽勝だ！

あと麒麟児暁我謝丸号（赤くて角付きの自転車。モデルは聖帝バイクと赤い彗星）が有るからインパクトの有る登場もできるな。

ああ訳が分からないから早く帰って母さんに会いたい…

しかも高校受験生つてことは15歳か？6つも若返った！1番素敵だった時期だな、今も素敵だな！

「取り合えずありがとうございました。そしてさようなら！試験受けて実家に帰らせて頂きます！」

「え、ちよっ」

台詞なんて言い終わらせないに決まってんだろボケ！

ベッドから勢い良く飛び降り靴を履き鞆と尿瓶を愛車のカゴに突っ込み颯爽と保健室から逃げ去る。

そして廊下を走り抜け（室内で自転車に乗るのは良くないぜっ）、会場に向かう。

実家には母さんがちゃんと居るのだろうか、隣の家のユリネちゃん
は相変わらず美少女なのだろうか…

早く確認したいな。

俺の記憶によれば試験官は雑魚だから直ぐ終わるだろ！

さあ！帰宅デュエルだぜ！

会場ってどこだ？

試験と尿瓶と屍と（前書き）

ルールは基本OCGです。

LPは4000です。

手札の数間違ってたら教えて頂きたいっすね。

試験と尿瓶と屍と

会場を探していたら立て札を発見！

まあそりゃあるわな。

受験番号は1002番。

取り合えず中に入ってみる。

愛車のせいで注目を浴びるが気にしない。

……人居すぎじゃね？

えええ…仲良しグループとか居るのに俺独りぼっちじゃん…
さびしい…

「受験番号1002番！試験を開始します！フィールドに上がって下さい！」

うお！

いきなりかよ！ギリギリだなおい！

取り合えずデッキを何故か持ってたデュエルディスクに挿し込み尿瓶を持って急いで壇上に上がる。

注目浴びるのって恥ずかしいよね

「受験番号1002番、守崎百合花ですね？試験を開始します。準備はよろしいですか？」

「え、あ、はい」

自己紹介が遅れた気もするけど。

俺の名前は

守崎 百合花

もりさき ゆりか

由来はなんでもエコーとかでいくら調べても女の子だったし女の子

が欲しかったから男の名前を考えて無かったらしい。

お茶目なママンだぜ…。

親父？ああバカだよな。

お隣のユリネちゃんとは「ユリ」繋がりで仲良くなりました！

うへへ…

背は高めなものの線が細くて中性的な顔立ち（らしいよ）と名前
で女の子と間違えられやすい。

レディースデーってずるいよね！

うん。試験官無視してた。

「それでは試験を開始します！」

「お願いしまーす」

「「決闘 デュエル ！！」」

1度言ってみたかったぜ！

多分先攻は試験官が取るな、確か。

手持ちのデッキを確認したら昨日完成させた嫁デッキだった。

シンクロはまだこの時代にはないはずだから今の俺にとっては丁度
よかったかな？

シンクロデッキもあるにはあるけど使うのは状況次第だろう。

「それでは先攻は私が貰います！ドロー！」

なにデッキかなあ…

次元帝とか除外じゃないと良いけど。

まあ手札は上々、次元帝でも上手く行けば1キルできる。

裂け目とかなければ…

「手札からアトランティスの戦士の効果を発動します！」

なるほど、海デッキか！

アトランティスの戦士は手札から墓地に送る事でデッキから
伝説の都 アトランティス

のフィールド魔法を手札に加える効果を持っている。
只でさえ攻撃力1900でそこそ怖いから海デッキには必須だろう。

「伝説の都アトランティスを手札に加え、発動します！そしてアビス・ソルジャーを攻撃表示で召喚しカードを一枚セット。ターンエンドです」

アビスソルジャーの攻撃力は1800。

アトランティスの効果で攻守共に200アップ。
よって2000。

どうせ俺のターンで終わるから効果の説明は無し！

「俺のターンドロー！」

来たのは手札断殺。

相手がコアキメイルとかだったらもはや惨殺だよね。

「俺は手札からソーラー・エクスチェンジを発動。手札からライトロード・ビーストウォルフを捨て、2枚ドロースる。そしてデッキの上から2枚墓地に送る！」

墓地に落ちたのはワイトキング2体。大分ついてるみたいだぜ！

「ソーラー・エクスチェンジ。手札からライトロードと付いたモンスターを捨てデッキからカードを2枚ドロースその後デッキの上から2枚墓地に送る魔法カードね…」

説明ありがとう！

で、誰？

試験官も驚いてるけど俺のが驚いてる。

いきなり横に幼女が現れた！

嬉しいけど！可愛いけど！

どうみても受験生じゃあないな？

あれか！俺をこの世界に導いた精霊的な！

テンション上がってキター！

「取り合えず尿瓶持つててくれない？」

「驚きの台詞とか無いの？しかもなんで尿瓶？まあ構わないけど…」
気にせずサクサク行こうか！

「そしてまた手札から魔法カード、闇の誘惑を発動。カードを2枚ドロ―し手札からワイトキングを除外する！」

「今度は闇の誘惑ね。カードを2枚ドロ―し、その後手札から闇属性モンスター1体を除外するカード」

説明偉いなあ…後でジューズをおごつてやろう。

「随分ドロ―をしますね…。手札事故ですか？」

「いやいや、試験官よ心配ご無用！これが俺のスタイルだ！

「ドンドン行くぜ！手札から魔法カード、手札断殺を発動！お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送り2枚ドロ―する！俺はワイト2枚を送るぜ」

「ワイト…ですか？また不思議なデッキですね？ワイトを入れてるだなんて」

呆れんじゃねえ！

この後でその呆れ顔も驚愕に変わるぜ？

「そして手札からワイトメアの効果発動！ワイトメアを墓地に送り除外されている自分のワイトキングを特殊召喚だ！」

「ワイトメア？初めて聞くカードですね…」

まあ出たばっかだからな。

「そして手札から真紅眼の不死竜を捨て、ダーク・グレファ―を特殊召喚！ついでに効果発動だ！手札から闇属性モンスター1体を捨て、デッキから闇属性モンスター1体を墓地に送る！」

「なるほど、ダーク・グレファ―はレベル5以上の闇属性モンスターを捨てる事で特殊召喚できる。さらに1ターンに1度手札から闇属性モンスター1体を捨てる事でデッキから闇属性モンスター1体を墓地に送る…何を選ぶのかしら？」

台詞長いね、お疲れさまです。

「決まってる！俺はコストにワイト婦人を、デッキからワイトを墓地に送るぜ！」

「またワイト…。薄々は気付いていたけど…。それより随分引きが良
いみたいね？」

「ん？そうだな、最初の手札が上々だったし引きが異常に良いから
な。きつと美少女の恩恵だろう。それよりも！俺はライトロード・
マジシャンライラを通常召喚し効果発動だ！」

「ライラの効果は攻撃表示から守備表示にすることで相手フィール
ド上の魔法、トラップカードを破壊する。まだあるけど今回は関係
無さそうね」

「ライラの効果で伏せカードを破壊させて貰うぜ？」

「くっ…。ミラーフォースが無駄になりましたか…」

あぶねえ…

ワイト系は婦人無しだと破壊効果は恐ろしいだけだからな…

「さ、終わりだ！ワイトキングで攻撃！」

「いくらキングとついても所詮ワイト！まだ場にはアビスソルジャ
ーがいる！耐えられるはずです！」

甘い甘い！

「残念無念また来年！ワイトキングは墓地に居るワイトキング、ワ
イトの数だけ元々の攻撃力が1000アップする！ついでにワイト
婦人は墓地に居る時はワイトとして扱う！素の攻撃力は？だけどな
あ！」

「そんな…！」

最初のソーラー・エクステンジで2体。
手札断殺で2体。

ワイトメアが1体。

ダーク・グレファアーで2体。

「今墓地に居るワイト系は合計7体だ！つまりワイトキングの攻撃

力は7000だぜえ!？」

「な、7000!？」

「理想には足りねえけどこれで終わりだな!アビスソルジャーを倒した上で5000ダメージだ!」

1息溜めてっと。

「ワイトキングでアビスソルジャーに攻撃だぜええ!!」

「ぐうあああ!!」

叫び声を上げる試験官。

……やべえやべえやべえ!

ソリットビジョンマヂやべえ!

近付いてくるワイトキングマヂ怖い!

ちよっと可哀想だったかも…

だつてゆっくり近付いて来て手を振り上げるワイトキング…

俺だつたらまず悲鳴上げるっての!!

目の前で引き裂かれるアビスソルジャー…

しかもソリティア気味だったかも…

と、とにかく勝利!

俺の勝ちだ!

「…お見事です。合否はおって連絡しますので…」

「あざーしたー!!」

さあ帰ろう!

ワイト使つてソリティア気味でその上1ターンキルのオーバーキルを披露したせいで周りの生徒から凄い目で見られてるけど帰ろう! 幼女に話を聞くためにも取り合えずお外に! 好奇の目も怖いもん!

「おめでとう。わかつてはいたけど流石ね。連れてきた身としては素直に嬉し」

「賛辞は良いから来なさいっ!」

「ちよつ、痛いわよ!？」

「いいから!外で詳しく聞かせて貰うからな!」

そんな訳でソリットビジョンの恐ろしさを知った俺は愛車に跨がり
幼女をかごに入れて会場を後にしたのだった

尿瓶?幼女に持ってて貰ってます。

フェリーと酔いと学園と（前書き）

大体二話に一回位のペースでデュエルさせるつもりです
故に今回は日常（？）編になります

フェリーと酔いと学園と

取り合えず試験会場から逃げ出しゃたら広い中庭に出てみる。

「さあ！名も知らぬ幼女よ！事情を総てお話しなさい！」

「また高圧的な…。先に3つ聞いて良いかしら？」

なんだ…？

スリーサイズか？

3つだから、バスト、ウエスト、ヒップなのか！？

それとも年収？

所持金すらあんまり無いんだぜ！

跳び跳ねたって音もしないからなっ！

む？わかつたかも！

「俺のマグナムなら約18口径だが？」

「下ネタな上にあからさまな嘘をありがとう」

「なっ、ホントだぞ！起つきしたら凄いです！」

「カセイ人なのにい？」

「俺はネイキッドスネークだYO！」

「それはどうでもいいから3つ。良いかしら？」

「あ、はい…。どぞー」

なんだ？聞きたいのは俺なんだけどなあ。

「1つ、貴方にとってはいきなり右も左も分からない所に飛ばされて来たはずだわ。飛ばした私が言うのはなんだけどなんでそんなに冷静なのかしら？」

「はい、昔から物事への執着が弱い上に周りに感心の無い子だと言われていました」

「それだけの理由で？不思議だわ…。やっぱり選んで正解だったよ

うね、俄然興味が沸いてきたわ」

「はい、ありがとうございます」

「2つ目、鞆には一応ガチガチのビートデッキとか使い勝手の良いデッキも入れてあったわよね？なぜわざわざその中からワイトを選んだのかしら？」

「それはですね、ガチ構成のデッキは使っても何のスリルも無いし何より堅実に勝ちを取るのは性に合わないのござる！カードの回り方は重い位が勝った時にちょうどいいスリルと満足感に満たされます故。それにファンデッキのようなものに負けて歯噛みする相手の顔は素晴らしいモノ故に」

「トリッキーなのが好みなのね。まあ他のデッキを見てもわかるけれどね。その上性格も歪んでる、だから近所の主婦に「守崎さんちの息子さんって昔は暴走族で今はチンピラヤクザなんでしょう？やーねー…」とか言われるのよ。あと駄目な面接みたいな喋り方は微妙にうざったいからいやだわ。丁寧どころか何処の「Japanese・サムライ！」よあなた」

何この娘…

なんでの確に人のソウルポイント削るの？

確かに言われるけど…

で、でも近所の子供達には

ししょー！

とか、

センサー！

とか言われて慕われてるんだぞ！

俺ハイスペックだし！

しかも俺チンピラでも暴走族でも無かったしね！

てか気付いた、この娘はやっぱ外人みたいだな。

侍の事誤解しすぎだろ。

そもそも、

緑の髪

赤い瞳

尖ったオーラ（俺にはオーラなんて見えないけどね）

性格は仕方無いし緑の髪なんて見たこと無いけどやっぱり外人だな、うん。

取り合えず可愛い。

ユリネちゃん（正に絶世の美少女）には少し負けるけど素晴らしい可愛さだ。

「なんで地元での俺の評価知ってるかは置いて、3つ目は？」

「そうね始めるわ」

「どすこい」

「3つ、性格なのは分かるけど何故「負けたら不合格」という状況であんなにギャンブル性の高いデッキを？真面目に答えて欲しいわ」

「そんなの、負けたって地元の学校に行って飛ばされる前と同じ生活するだけだし。そもそもワイロはそこまでギャンブル性高くないぜ？確かに最初のドロ―次第ではあるけど比較的回りやすい様に調整してあるしな。ジャツジメントって切り札も有るからある程度までなら長期戦も考えてあったよ」

「そう…。貴方にはなんだか驚かされてばっかりだわ。とにかくこれで私の質問は終わり、貴方からも何か有るかしら？」

「もちろん。まあ何故連れてきたかは下手したら夢オチってのもあり得そうだから聞かない」

「意外と疑り深いのねえ」

うっせ、小心者なんだよ！

「取り合えず1つ！今地元に戻ったら15歳の俺が居たりしないよ

な？ついでに15歳の時と境遇は変わらん？周りに変化は？」

「はいはい、そんな一気に言わないの。答えは「NO。」変わったのは世界だけ。OK？」

「まあ、わかった、かも……」

「煮え切らないわね。とにかく「あなたのセカイ」はいつも通り。

OK？大好きなママもユリネちゃんも元気だわ。これで納得した？マザコン」

っな！くそっ……

『マザコンですけど何か問題でもありますっ！！？ママが好きで何が悪い！なんか文句あつかあああああ！！！』

「ちよっ、声大きいわよ……？今の大声でこの学園中に貴方がマザコンって知られたけどいいの？」

「うっせえ！魂の叫びじゃい！もう知らん！帰る！」

いいじゃん！マザコンだっていいじゃん！

「はいはい。私も悪かったわゆ……」

「語尾可愛いな。噛んだの可愛いな！」

「い、いいから！帰るんでしょ！？早くフェリー乗り場行くわよ！」

「照れてるのかわい……え？フェリー？」

ちよっ、え？

「当たり前じゃない。ここ孤島よ？さ、行きましょ」

いやいやいや！

ちよっとまで！

「無理無理無理！俺は船はダメだ！」

「仕方無いじゃない。まさか怖いのお？いいから行くわよ！実家気になるんでしょ？」

「く、くそっ！行つてやるよ！トラウマ上等！船酔い上等じゃい！」

言い放って直ぐに幼女をカゴに突っ込み愛車を漕ぎ出す。
いきなり変な所に来て、試験官歯噛みさせてマザコンがバレて…
疲れた…
帰ったら寝よう。

あれ？

この幼女まさか俺の家に済むのか？もう訳わからんよ…
フェリー揺れすぎだろ…吐きたい…

「速く帰りたいよおおお!!」

「五月蠅いわよ…」

「すびばでん…」

怒涛の1日を経て、俺は帰路につくのだった。

実家と隣家と学園と（前書き）

一応

デュエルしてます

ええあれも一種のデュエルです

キャラの口調とデッキ構成うる覚えなんですみません…

学園編からは頑張ります

はい、学園編から頑張ります

実家と隣家と学園と

船に揺られること約30分。（途中で吐いて気絶したため詳しくは不明…）

またもや知らない港に着き、幼女に連れられ実家のある町へと帰還！
いやまさかチャリを軽トラに乗せるためにヒッチハイクさせられるなんて…

知らない港から知らない軽トラの荷台で運ばれるなんて…

なんで俺は荷台であいつ助手席なの？

てかなんであの軽トラ左ハンドルなの？外車なの？お洒落なの？

荷台には俺と愛車とお野菜積んでたくせによぉ…

まあなんとかやつと帰ってこれ…待てよ？

「へい幼女、君まさかうちにくるのか？」

「What? 当たり前でしょ？何バカな顔してバカな事言ってるのよ…？レディーを野宿でもさせるきかしら？」

おいおいマジかよ…

「いやいやいや、そんなつもりはねーけどさ…うちのママンになんて言う気だよ！」

「ああ、それなら平気よ？手は打ってあるから」

「はいいい？何言ってるわけえ？」

「まあ入ればわかるわよ。行きましょ」

歩きだす幼女。

意味がわからん…

助けてママン…ユリネちゃん…

てかおいおい！

いきなりドアあけるなし！
心の準備ぐあ！

お洒落な一軒家である我が家のお洒落なドアノブに手を掛け普通に
あけるなし…
あけるなし！

「た、ただいま母さーん！帰ってこれたよママーン！」

「百合ちゃん！お帰りなさい！百合ちゃん居ないからママ寂しか
つ…あら？この娘は？」

「こんにちはおば様 私、百合花さんのお父様の従兄弟の従兄弟の
叔父様のお父様の従兄弟の従兄弟の弟の息子の娘の娘です。今日か
らこちらでお世話になることになったんですけど…連絡いってませ
んか？」

……うん。誰だそれ。

待て待て待て。

整理しよう。

親父の従兄弟の従兄弟〓親父。

従兄弟の従兄弟の叔父様〓親父の叔父さん。

親父の叔父さんのお父様〓俺のひいじい様。

俺のひいじい様の従兄弟の従兄弟の弟〓俺のひいじい様の弟。

俺のひいじい様の弟の息子〓俺のじい様の従兄弟。

俺のじい様の従兄弟の娘〓親父の従姉妹。

親父の従姉妹の娘〓俺の従姉妹。ん？もはや再従兄弟？

いやー、わからん！第1分かりにく過ぎるわ！

最初から従姉妹が再従兄弟っていや！

「……？ゆ、百合ちゃん…お母さん良くわからないんだけど…」

「大丈夫さママン。俺も分からないから。恐らく再従兄弟ですがね！」

「すいません…日本語はまだ不慣れで…」

「再従兄弟？なるほど…そう言えばこないだ手紙が来てたかも…」

まじかよ母さん…

「手紙なんて来てたの？」

「たしか…パパに聞いてみるね」

「親父も知らなかったらシニールだわな…」

いやマジで。

「あつ、もしもしパパ？あのね、百合ちゃんの再従兄弟の娘が来るんだけどパパ何か知ってる？」

ママンが電話を始めたから俺は幼女に詰め寄ろうか。

「おい…あの設定マジかよ？」

「そんな訳無いでしょ？世界を変えるついでに私が動きやすいようにちよつと親類に加えて貰っただけよ。それ以外は変わってないから」

あたいもついや！

「ま、マジかよ…」

「あ、百合ちゃん！パパに聞いてみたんだけどね、明日からその娘家に来る予定だったんだけどさつき予定が早まったんだって！」

「わーお…百合ちゃんびつくり…」

「そう言う訳です。よろしくお願いしますね」

されたくねー！

ところ変わって俺の部屋。

幼女とママンは洋服とか生活用品を買いにおでかけ。

俺はお留守番。

やることなんてなんもねーよ…

デッキ改良する気力もなピンポン

…誰だよ！なんだ！？今は俺の思考を邪魔するのが流行ってんのか！？

部屋から出て階段を降りてドアをガチャっ！

「はいどなたでござそうろう！？」

「あつ、百合ちゃんだぁー！お帰りなさい 受験どうだった？」

ゆ、ユリネちゃん！

可愛いなぁ…

御隣の家に住む「宮城さん」ちの1人娘であり、絶世の美幼女ユリネちゃんだ！

類いまれなるルックスと気取らない性格で俺のハートを鷲掴んでくるイケナイ娘。

なにようだろうか…

「おつすユリぴょん！試験は完璧だったぜ！」

「完璧かぁー！おめでただね！」

いやおめでたは違うんじゃない？試験完璧だと妊娠すんの？

「んでなにようかな？」

「えっとね、従兄弟の遠い親戚のお兄ちゃんがね、百合ちゃんとデユエルしてみたいんだって！」

また従兄弟関係かちくしょう！

「まあ…仕方無いなあ…上がりたまえよ」

「はい おっじゃましまっす！」

「ふんっ、上がらせて貰おう」

なにこいつム力つく…

てか見たことあるな…

ッ！？

アレじゃん！なんとかサンダーじゃん！

あの幼女め…！何故ユリネちゃんの親戚にサンダーを…！

悔しい現実に頂垂れつつ、ところ変わって俺の部屋！

「ふんっ、狭い部屋だな」

「なんだお前？」

そっぴや最初期は生意気な坊っちゃんだったか。名前忘れた。

ま…ま？

「百合ちゃんはやーくー！」

「はいはい。しゃーなーなあ」

「実技試験見せて貰ったが中々面白いデュエルするじゃないか。まあ俺には及ばんだろうがな…」

マヂなんなのこいつ…

「うるせえぞま…万城目！そっぴや！お前の名前確か「まきめ」だ！」

「まきめ！？」「まんじょうめ」さんと呼べ！」

「いいから始めるか、れつつデュエル！」

「ちっ、デュエル！」

なんだっけ？ドラゴンだかXYZだったかな？

今回はわりいけど俺の先攻1ターンで終わらせて貰うかな。
めんどいし…

禁止カードも入れてあるもんね！

この時代に禁止だったかは覚えて無いけどな！

「じゃあ俺の先攻ドロー！」

「ふんっ！精々楽しませてくれよ！」

うるさいなあ…

「手札断殺発動。お互いは2枚手札を捨て2枚ドロー。俺は2枚捨ててドロー、ついでに捨てた「処刑人マキュラ」の効果を発動だ。このターン俺はトラップカードを伏せずに発動できる。」

「ふんっ！だからなんだ？」

やった！マキュラ気にしてないややった！

ただいま手札5枚。

「モンスターセット。魔法カード「太陽の書」発動だ。モンスターの攻撃表示にし、リバー効果発動。「魔導雑貨商人」の効果で、魔法、罠カードを引くまでデッキの上からカードを引き、それ以外のカードは墓地に送る。」

シャキーンシャキーンシャキーン。

デュエルディスクカッコいいな！

「どんどん落ちるぜ。10、11…」

「いくらなんでも落ちすぎじゃあないのか？」

「このデッキ魔法、罠は合計で7枚しか入って無いからな…おっと終わりだ。合計18枚。いくらなんでも落ちすぎだろ…」

ワイトだったら狂喜乱舞！

「まあいい。お前のデッキ負けが近くなるだけだからなあ！」

「いや？それはねーなあ」

「なにい？」

「だってもう、俺の勝ちだ」

サクサク終わった！

引きが良かった！

「俺は手札から罾カード「現世と冥界の逆転」を発動。こいつは使用者の墓地に15枚以上カードがあるときに発動可能だ。お互いのプレイヤーはデッキと墓地を入れ換える。」

まあ1ターン目なんかに使われたら次の相手はデッキ負け。そりゃ禁止にもなるやなあ…

「な、な…」

「ターンエンド。俺の勝ちだな！」

「1ターン目にデッキ負けだとお！？」

「まさかこんなネタデッキで勝てるなんて…（笑）」

「き、貴様あ！」

「これで気はすんだろ？さあ帰れよ、まきめ」

「万城目さんだ！この借りは学園で返す！」

「はいはい。早く帰れよまきめ！」

「くっ、さらばだ！」

「あつ、帰っちゃった…。百合ちゃん遊んでー？」

デュエル中ポカーンとしてたユリネちゃんも可愛かったが普通のユリネちゃんがやっぱり最高です！

「よいよ！何する？」

「うーん…。デュエル！」

うひゃー！

まちかよ…

「俺は違うのがいいなあ…」

「むむむ…じゃあ「私立探偵、御前崎フレッド 夕闇に消える夢の後」「ごっこしょつか！」

「…え？なにその濃い名前…夢は消えてるかも知れねえけどそいつの名前は頭から消えねえよ…」

「あつ！フレッドの終生のライバル「アルベルト数馬」の台詞だね！百合ちゃんしつぷーい！」

わーお（笑）

意味わからん…

意味わからん！

意味わからん！！

「まあいいや。やろつか！」

「やったあ！ユリネがフレッドやるから百合ちゃんはアルベルトね！」

「よーし！もうなんでもいいよ！」

そうしてやつと第一日終了！

合格通知来たら学園に移ってデュエル三昧か…

つかれそうだなあ…

まあ仕方無い！

気合い入れてがんばりますかぬ！

やってやるうじあないか！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1281p/>

遊戯王 蛇と悪魔と屍と

2011年10月6日17時14分発行